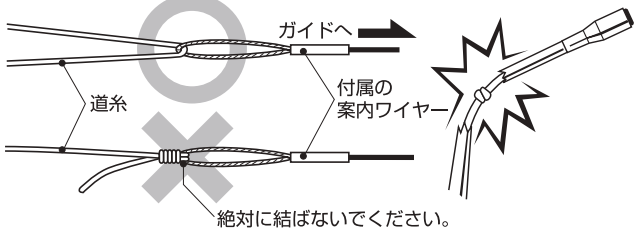


■使用上のご注意（遠投を除く5本仕舞の場合）

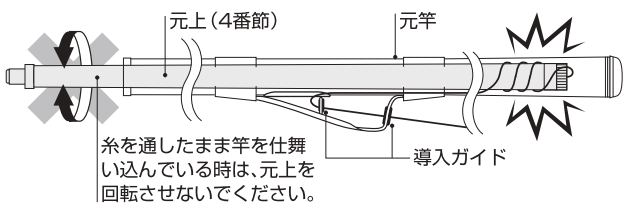
- 破損の恐れがありますので、
 - 先糸はご使用にならないでください。
 - 案内ワイヤーで、道糸を通す場合は、絶対に結ばないでください。
 - 案内ワイヤーは、付属のワイヤーをご使用ください。



- ゴムのウキ止めは、ご使用にならないでください。
- 1番節の過度な手曲げは、差し控えてください。

- 糸を通したまま竿を仕舞う時は、竿の内部で糸がたるまないようにテンションをかけた状態で、仕舞い込んでください。たるんだまま竿を仕舞うと内部で糸がからむ恐れがありますのでご注意ください。

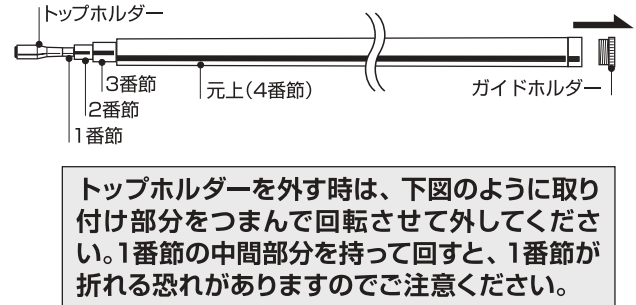
糸を通したまま竿を仕舞い込んでいる時は、糸を回転させないでください。糸が絡んで破損の原因となります。



■分解・お手入れ方法（遠投を除く5本仕舞の場合）

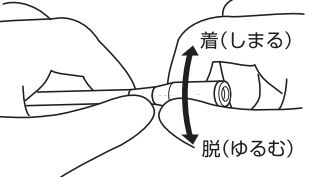
分解手順

- 元竿の尻栓を左に回して外します。
- 元上(4番節)のガイドホルダーを外してください。3番節～1番節が抜けます。ただし、1番節を抜く場合は、トップホルダーも外してください。



トップホルダーを取り付け部

トップホルダーの脱着はこの部分をつまんで行ってください。

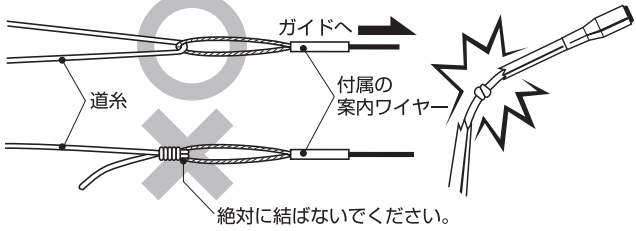


組立手順

- 組立は前記の分解手順と逆に順次行なってください。
- 組立の時、元上(4番節)の尻栓は十分締め付けてください。ネジの締め付けが不十分だと、トラブルの原因になります。
- 元竿の尻栓はしっかり締め付けてください。締め付けが不十分だと衣類の摩擦等で尻栓が外れて紛失の恐れがあります。

■使用上のご注意（遠投5本仕舞の場合）

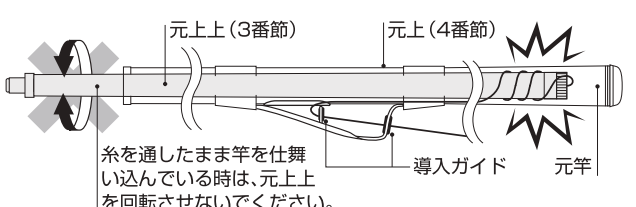
- 破損の恐れがありますので、
 - 先糸はご使用にならないでください。
 - 案内ワイヤーで、道糸を通す場合は、絶対に結ばないでください。
 - 案内ワイヤーは、付属のワイヤーをご使用ください。



- ゴムのウキ止めは、ご使用にならないでください。
- 1番節の過度な手曲げは、差し控えてください。

- 糸を通したまま竿を仕舞う時は、竿の内部で糸がたるまないようにテンションをかけた状態で、仕舞い込んでください。たるんだまま竿を仕舞うと内部で糸がからむ恐れがありますのでご注意ください。

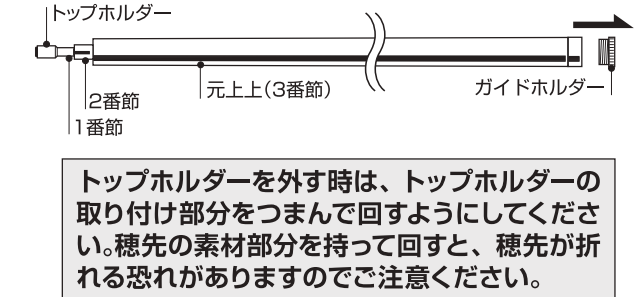
糸を通したまま竿を仕舞い込んでいる時は、糸を回転させないでください。糸が絡んで破損の原因となります。



■分解・お手入れ方法（遠投5本仕舞の場合）

分解手順

- 元竿の尻栓を左に回して外します。
- 元上上(3番節)のガイドホルダーを外してください。2番節～1番節が抜けます。ただし、1番節を抜く場合は、トップホルダーも外してください。



トップホルダー

組立手順

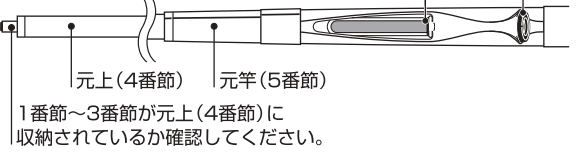
- 組立は前記の分解手順と逆に順次行なってください。
- 組立の時、元上上(3番節)の尻栓は十分締め付けてください。ネジの締め付けが不十分だと、トラブルの原因になります。

■ご使用方法（遠投を除く5本仕舞の場合）

- 竿の糸通しは、元上(4番節)を伸ばし、1番節～3番節を元上(4番節)に収納した状態で行なってください。

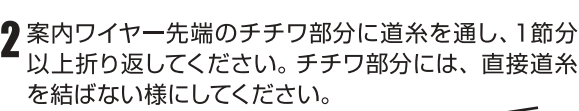
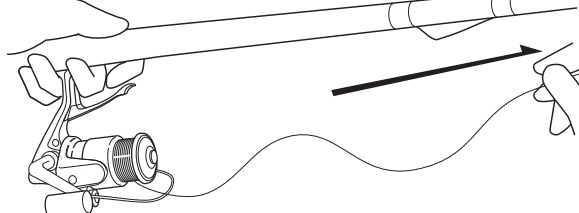
伸ばされた元上は、水平より上向き状態にして糸通しを行なってください。下向きに構えますと1番節～3番節が元上の後端ガイドホルダーから離れて糸通しが大変困難となります。

●糸通し作業時の状態



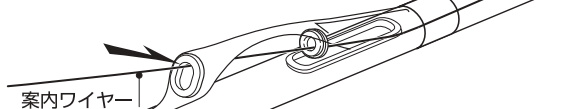
糸通しから半セットまでの作業

- 元竿にリールを取付けて、道糸を十分に引き出してください。



絶対に結ばないでください。

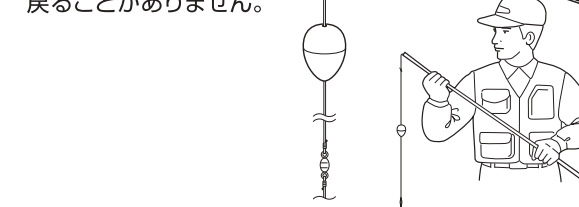
- 元竿(5番節)の導入ガイドから、元上(4番節)のガイドホルダーの真中をねらって案内ワイヤー先端(チチフと反対側)を通して行きます。



- トップガイドの先端からワイヤーの端が出たら、ワイヤーのひかかりがないかを確かめながらゆっくりと引張って道糸をだしてください。

- 1番節の先端は径が細くなります。もし途中でひかかる様なことがあればむりをせずにもう1度やり直してください。

- 道糸を通したら、仕掛け等を付けてください。道糸が戻ることはありません。



たとえば、図のように道糸の先に10号程度のオモリを付ける等して道糸に、テンションをかける。

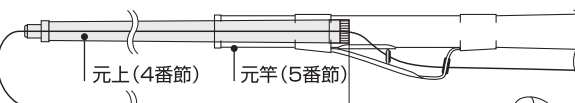
- リールのペールをオープン状態で1番節から順番に縦目を目立たしなから竿を引き出してください。

元上(4番節)が引き出せた後に1番節、2番節、3番節の順に竿をセットしてください。

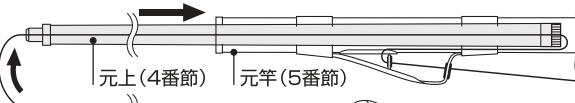
糸通しをした状態で磯へ渡る場合

- ウキ、サルカン等をセットし、道糸を引き出してください。この時、元上(4番節)の長さより10～20cm程長く道糸を出してリールのペールを戻してください。

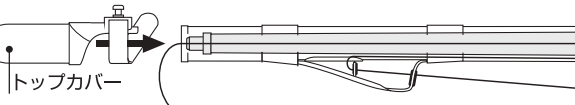
引き出した道糸の長さは必ずキープしてください。



- 元上(4番節)をゆっくり元竿(5番節)に仕舞っていくと元上(4番節)が元竿(5番節)に入っていくぶん道糸がトップガイドの中へ入っていきます。



- 元上(4番節)の長さより長く出ている分だけ道糸が残って元上(4番節)が全て元竿(5番節)に仕舞い込まれます。最後に残った道糸をトップカバーを付けて固定してください。



前項の後に仕掛けをセットする場合

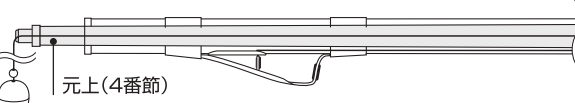
- 前項目で仕舞い込まれた状態は導入ガイドから入った道糸が元上(4番節)と元竿(5番節)のすき間に導入ガイドと元上(4番節)後端のガイドホルダー部の2箇所で道糸が180°折れ曲がって入っています。

このままの状態では、リールのペールをオープンにしても道糸は引き出せません。

- この状態で道糸を出す場合は、元上(4番節)を引き出してから行うようにしてください。

元上(4番節)を引き出す時に元竿(5番節)のすき間にある道糸が元上(4番節)と元竿(5番節)の合わせの部分に吸い込まれて道糸がカミ込む恐れがありますので十分にご注意ください。

- 元上(4番節)を引き出す時に、内部で道糸がたるまない様にトップガイドから出ている道糸には、常にテンションをかけてながらゆっくり引き出してください。



たとえば、図のように道糸の先に10号程度のオモリを付ける等して道糸に、テンションをかける。

- 元上(4番節)が引き出せた後に1番節、2番節、3番節の順に竿をセットしてください。

7WHRCMDX000-000

SHIMANO ISO ROD

インナーガイド 中通し振出磯竿 取扱説明書

このたびは、シマノカーボンロッドをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。いかに軽くて丈夫なロッドでも、乱暴な取り扱いでは、竿を傷めてしまいます。釣り人にとって、竿は大切な体の一部。この説明書をお読みの上、永らく、ご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

株式会社 シマノ

〒590-8577 大阪府堺市堺区松岡3丁77番地

お問い合わせ

0120-861130 (ハローイサオ)

【受付時間】AM9:00～12:00 PM1:00～5:00(土、日、祝日は除く)

http://www.shimano.com

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、

シマノならではのオリジナル情報を発信しています。

また、カタログのお申し込みも受け付けています。

■アフターサービスに関する情報やパーツ互換性の検索、

メンテナンス動画など視聴いただけるHPアドレス:

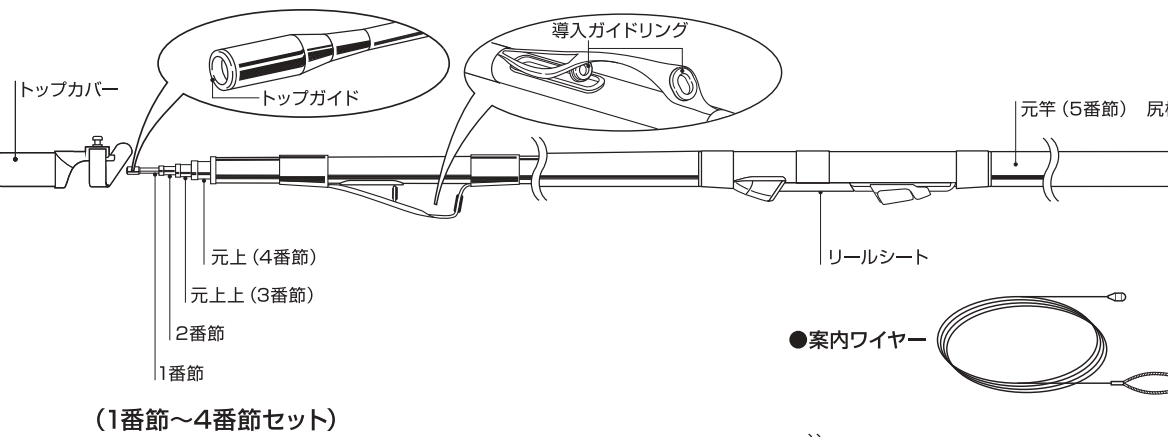
https://www.shimanofishingservice.jp/



SHIMANO

■各部の名称と仕様

●イラストは中通し振出磯竿の5本仕舞で説明しています。

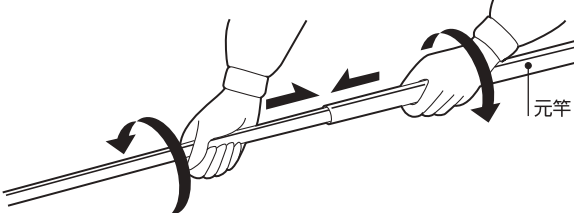


※イラストはイメージです。

■ご使用後の収納方法

- 釣り終了後は、糸カミトラブル防止のため、仕掛けを切り道糸をリールに巻き込み、各部を収納してください。

- 必ず元上から順番に縦目近くの両側を両手で持ち、右図のようにヒネリながら押すようにして、縦目の固定を緩め、元竿に順番に収納してください。



この際、一氣に力を入れると、釣竿の縦目に手をはさみ怪我をする恐れがありますので、注意しながら徐々に力を入れてください。

■安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 危険	
⚠	高圧線への接近による放電や感電、さらには雷害による感電は、最悪の場合重大事故(感電死)を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意ください。 気象条件により、空気中に電気を帯びている場合があります。ビビリと電気を感ずるのはその為です。天候の悪化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣りはお避けください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。
⚠	電線との接触による感電 高圧線・線路・鉄構等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等と接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣場を移動する時は竿をたたみ、高圧線・線路・鉄構等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。
⚠	雷害による感電 雷害による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。また、雷の発生がくとも、釣竿から電気を感ずるようなときも同時に、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。
⚠	釣り場以外の電線による感電 釣り以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。
⚠ 警告	
⚠	キャスティング(投げ)の際の注意 キャスティング(投げ)の際は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアー・フック、オモリ等が人に当たると非常に危険です。
⚠ 注意	
⚠	穂先のぶれを防ぐため 釣竿の穂先(穂先部が食い込んで外れない)は、穂先の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに反対方向へヒネリながら押して(振出竿の場合)、穂先をゆるめてください。その際、一氣に力を入れると釣竿の穂先に手をはさみ、けがをする恐れがあります。
⚠	竿の構造上、故障を完全に防止することはできません。故障をゆるめる時等、強く竿を握ると竿が潰れて破損し、手に怪我をする場合がありますのでご注意ください。
⚠	故障をゆるめる時等、ガイド部分を握った際の抜き差しはしないでください。ガイドの変形や糸止部の破損の原因になり、手等に怪我をする場合がありますのでお気をください。
⚠	根掛かりの外し方 根掛かり(水中、陸上での障害物に仕掛けが絡みはずれない状態)した時は、無理に竿をあおらないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできて、けがをする恐れがあります。根掛かりは、出来るだけ、糸を巻いてゆっくり引張って糸を切ってください。その際、糸で手を切ることがありますので、手袋やタスク用手を装着してください。
⚠	破損時の取り扱い方 使用中、万一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、割断)した場合、破損した箇所を手で触らないでください。破損時の取り扱い方 使用中、万一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、割断)した場合、破損した箇所を手で触らないでください。破損時の取り扱い方 使用中、万一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、割断)した場合、破損した箇所を手で触らないでください。
⚠	子供の手が届く所に置かないでください 誤使用による事故や怪我に繋がる恐れがあります。
⚠	釣竿を釣り以外の目的に使用しないでください 事故や怪我につながる恐れがあります。
⚠	竿の一部や穂先等を無理に曲げると折れることがあります 折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがありますのでご注意ください。
⚠	安全に釣りを続けるために 万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがあります。釣りをする際には、安全のためサングラス(偏光グラス)、帽子の着用をお勧めします。

■修理部品に関するお願い

パーツを注文される際には必ず商品名と商品コード番号をお知らせください。

弊社では修理部品を商品コード番号によって分類しています。穂先交換などご自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書(保証書の付かない商品もあります)、本体元竿、バックジのラベル等に記載されています。商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。

●修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。

●修理対応期間につきましてはシマノカスタマーセンターHP

(<https://www.shimanofishingservice.jp/>)をご覧ください

※商品コード番号は、数字の5ケタまたは6ケタになっています。

(例) CODE No.12345またはCODE No.123456

保証書(保証書の付かない商品もあります)

コード保証書 No.12345

元竿

バックジ

CODE No.12345

パッケージ

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

CODE No.12345

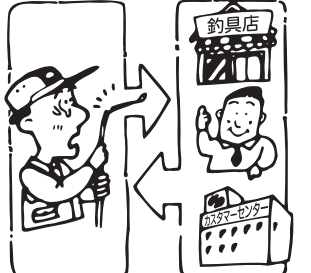
CODE No.12345

●ロッドの曲がりについて
現在の竿生産技術上、グラスロッド、カーボンロッドの違いを問わず各部分の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。特にカーボンロッドに於いては繊維自体の持つ強い剛性のため、竿全体に曲れがりがないので従来のグラスロッドに比べ曲がりがどうしても目立ちます。強度機能上は問題ありませんので、ご安心ください。

●改造後の責任は負いかねます。
改造後の故障については、保証期間中であつても負いかねる場合があります。ご注意ください。

●万一の故障の時
お買い上げの販売店又は、シマノ製品取扱販売店にお預けください。お近くにシマノ製品取扱販売店がない場合や、販売店へ修理品を持ち込む以外の方法を検討される場合には、シマノダイレクト修理サービスもご利用頂きます。

詳しくはシマノカスタマーセンターHP(<https://www.shimanofishingservice.jp/>)をご覧ください。その際、保証書付きの商品は保証書とお買い上げ年月日の記載がある購入証明を添えてください。



※この製品の補修性能部品の保有期間は、製造中止後6年間としています。性能部品の、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品の保有期間は、製造中止後6年以内でも供給できない可能性があります。